

High ♥ Line Wakabayashi はいらいん若林

みんなでここさ

入らいん!



若林区まちづくり協議会会報

2000.11.15 Vol. **2**

大地に響く若林区のハーモニー ——音楽を通じたまちづくり——

第7回 若林区合唱のつどい 2000

大地に響けみんなのハーモニー

主催：若林区まちづくり協議会・若林区中央市民センター 企画運営：若林区合唱のつどい実行委員会



「わたしがステージに上がったとき、お
かあさんといもうとが手をふってくれま
した。わたしは手をふれなかつたけどう
れしかったです。」(六郷小学校2年2組
記念文集より)

去る7月7日に若林区文化センター
で「第7回若林区合唱のつどい2000」
が開催されました。小学生の団体から
一般の団体まで区内で活躍する合唱団に、
ブラスバンドやこの日のために有志で結
成された「ミレニウム合唱団」を加え、約



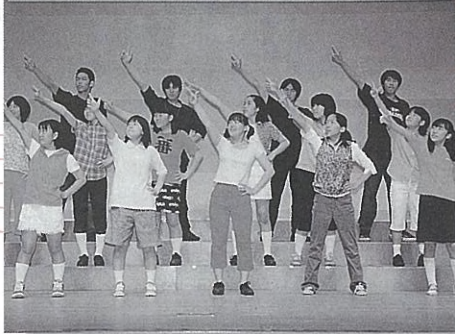
二〇〇団体が参加しました。

当日は、若林区副区長の指揮による「夏
の思い出」で幕があがり、子供たちのか
わいらしい歌声や各合唱団の力が入った
合唱がホールに響き渡りました。休憩時
間のアトラクションを挟み、ブラスバンド
演奏やソプラノ歌手佐藤順子先生のソロ
が披露され、ミレニウム合唱団による「君
に会えて」が演奏される中、盛況のうち
に合唱のつどいは、幕を閉じました。



大地に響けみんなのハーモニー

主催：若林区まちづくり協議会・若林区中央市民センター 企画運営：若林区合唱のつどい実行委員会



「野球でいう「始球式」の雰囲気を含
唱に取り入れてみようと思ひまして、(開
幕式を)副区長にお願ひしました」。実
行委員長の阿部勝彦さんが答えてくれ
ました。

今回の合唱のつどいは、随所に新しい
試みが見受けられ、楽しいものとなった
反面苦勞も多かったのでは?と阿部さん
に聞いてみると「合唱のつどいで、ブラス
バンドを加えるなど新しいことをやるの
には勇気がいった。でも楽しめるもの
にしかつたし、聴衆の感想では好意的な
ものが多かったのでほつとした。」とこ
やかに語ってくれました。

会報の愛称

「はいらいん若林」とは

仙台弁の「入らいん(お入りください)」に英語のhigh(ハイ・高い)とline(ライン・路線、進路、などの意)とをかさねあわせた造語です。温かさより高いレベルをめざそうという気持ちが込められています。

特集 消防団

普段は自分の仕事を持ちながら、いざというときは地域の防災リーダーとして活躍する消防団員。その活動は意外と知られていません。今回は地域の消防団を特集します。

若林

消防団ってなあに？

仙台市の消防団は、昭和23年3月に消防組織法が施行され、市の消防機関の一つとして同年11月に発足しました。以来52年が経過し、その間、消防団は郷土愛護と奉仕の精神に支えられ、地域住民の厚い信頼と支援を得て活動してきました。

仙台市には現在7つの消防団があり、そのうちの一つ、若林区を担当している若林消防団には、連坊、南材、南小泉、六郷、七郷の5つの分団があります。消防団員は、消防署の職員と共に市民の生命と財産の安全確保に大きく貢献しています。

団員は仕事を持ちながらも、「安心して暮らせるまちづくり」のためにボランティア精神で、火災や水害、避難等のあらゆる災害に出勤し、地域住民のために献身的な活動をされています。

また、家庭への防火指導、災害弱者への対応、大規模災害時における地域防災リーダーとしての役割など、より地域に溶け込んだ活動を行うべく日々活躍されています。

期待される女性の役割

南材分団に女性消防団員として入るきっかけとなった経緯や、その活躍ぶりを聞いてみました。

近年、なかなか団員の定数を確保するのが難しくなり、「女性の参加を」と平成9年度に募集したのが始まり。婦人防火クラブの会長を務めていた村主さんを含む7名は、抵抗なく入団したとのこと。ただ分団の方では、経験がなかったことなので戸惑いはあったようです。今では、35名中10名が女性団員と、仙台市でも女性団員が多い分団となっています。若林区内では他に、南小泉分団で4名が活躍しています。

訓練などもすべて男性と同じ様にこなし、夜中も出勤します。さらに、男性とは違った木目細かい気配りで、分団内は和気あいあいとした雰囲気だそうです。女性団員全国大会で優秀な成績をおさめたり、学校での訓練では、子供達から「かっこいい」との声も…。今後、ますます女性の活躍が期待されると思います。



入団したいが手続きは!!

若林区に居住する方、又は仙台市民で若林区内の事業所に勤務する満18歳以上60歳未満の方ならどなたでも入団資格があります。どの分団も定員があり、現在は南小泉・七郷団管内で団員が特に不足しているそうです。

問い合わせ先は 若林消防署 (TEL282-0119)
連坊出張所 (TEL256-4456)
河原町出張所 (TEL215-0015)
六郷出張所 (TEL289-4365)

▼20代の方も活躍していますので、若い皆さん!!
お気軽にお問い合わせください。

家族・職場の協力は大切

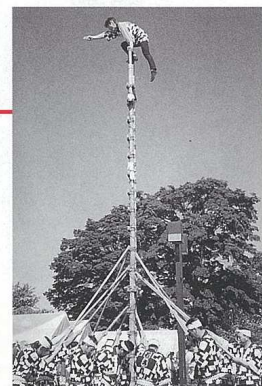
若林消防団長宅では、災害出動の無線が流れてくると奥様が連絡網にそって各幹部に連絡してくれます。その間に制服に着替えたり準備を整えたりできるため、敏速な出動ができるそうです。

他の分団でもご家族の理解や協力があって、はじめて円滑な活動ができたとおっしゃっていました。

現在、消防団員の半分くらいはサラリーマン団員です。仕事中に災害現場へ出動しなくてはならないときや、職場を休んで訓練等に参加することがあります。地域社会に貢献するため活動している団員に、職場の皆様のご理解とご協力をお願いしたいとのことでした。

救 急救命の普及指導員として

“救急車が来るまで”をテーマに、応急手当や救命に必要な基礎知識のほか、「人工呼吸」や「心臓マッサージ」、「止血」の講習会を消防署と連携して春と夏に町内会を対象に指導や応援をしています。



活動 — その体験から

火災や水害時における出動、家庭への防火指導、被災者への対応など、地域における防災の役割は重要です。

六郷地区や七郷地区では、水害時の土のろ積みや捜索・救助など、他では経験しないことをやっています。連坊地区では、10数回に及び放水騒ぎがありました。災害現場での後片付けも大変な作業です。ベテランの団員の方は、いろいろな場面を目の当たりにし、火災現場での臭いには敏感になるそうです。何と言っても、流される危険を伴う水害時の活動が一番怖いと聞きました。

また、訓練や週1回の点検、夏の特別点検など日頃の活動も重要です。

年間の主な活動

- 1月 … 出初式 (はしご乗り隊)
… どんと祭警戒 (各神社の警戒)
- 2月 … 林野火災防衛訓練 (浜辺の森)
- 3月 … 春の火災予防運動
- 5月 … 水防訓練
- 6月 … 防災訓練 (地震を想定したもの。全市一斉)
- 8月 … 七夕はしご乗り (定禅寺通り)
… 特別点検 (広瀬川河川敷において機械器具の点検、けが人の応急処置、放水訓練等で日頃の成果を競う。)
- 11月 … 機械器具点検 (24ヶ所)
… 秋の火災予防運動
- 12月 … 年末警戒

20世紀最後の若林区民ふるさとまつりが10月22日(日) 若林区役所特設会場で行われました。

今世紀最後のまつりにあたって、区民ふるさとまつり実行委員会では、小さな若林区から世界へ、そして来るべき21世紀へ13万人のメッセージを発信したいとの願いを込めて、「I Love 若林」のキャッチフレーズのもと、環境にやさしいまつりを目指して様々な工夫を凝らしました。その様子の一部をご紹介しますと…

「ごみ奉行」登場

「ごみ奉行」「分別してみ隊」「ダストバスターズ」の皆様がたすきをかけ、あるいは紅白の鉢巻を締め、会場内に神出鬼没。せっせと割り箸回収やごみ拾いをしました。見かけられた方も多かったのではないのでしょうか。ご来場のお客様の協力もあって、まつり会場はいままでになくきれいで、お褒めの言葉もいただきました。



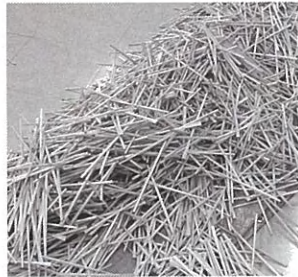
マイバッグの作り方、牛乳パック等を利用したクラフトの紹介

マイバッグ(買い物袋)の作り方を紹介したり、できあがったものを展示しました。買い物にマイバッグを持っていくことは、ごみを減らすため手軽に出来ることですね。牛乳パックやラップの芯などを利用した椅子などの展示・実演も行いました。



割り箸回収

飲食コーナーで出た割り箸を回収しました。これらは洗浄した後で製紙工場に送り、パルプの原料として使ってもらいます。



ごみ分別体験コーナー

レシート、窓(透明フィルム)付き封筒、写真フィルムのケース、スタミナドリンクのビンと蓋。皆さんは、これらを「家庭ごみ」「市の資源回収」「集団資源回収」の3つに分別できますか?これらを実際に分別してみる体験コーナーをまつりのステージ会場前に設けました。予想を上回る盛況振りで、当然のように分別していく人もいれば、「え、違うんですか?」といいながら説明に耳を傾ける人などいろいろでした。パーフェクトに分別できた方はあまり多くありませんでしたが、「資源」として再利用できるものを取り除くと、「ごみ」の総量がぐっと減るのが実感していただけたと思います。これをきっかけにごみ分別への意識が高まることを期待します。

これらのほか、非木材食器*の使用など環境に配慮した出店を行った「愛宕商栄会」、「仙台七郷農協女性部」と「若林つどいの家」を「環境三ツ星店」に選ばせていただきました。賑わいを見せたフリーマーケットも、家庭に眠る不要品の再活用という点から「環境にやさしいまつり」の一翼を担ってくれたといえるでしょう。今年のまつりは、晴天に恵まれ、和やかで温かな若林区民の心が見えるまつりになったと感じています。「I Love 若林」のフレーズが21世紀になっても一人でも多くの人の心に鳴り響いていくことになれば、実行委員としてこれ以上の喜びはありません。

* (森林破壊を防ぐため、ケナフや葦のような草で作られた食器。燃やしてもダイオキシンが出ない。)

会報プロジェクトメンバー

リーダー 勝又 久雄
猪俣 典子 / 西條 芳郎
小野寺 民枝 / 和野 勝

編集後記

▼今回の特集では若林区内外各地の消防分団代表の方々にお集まりいただき、多発の方に一堂に集まっていたら、発言しづらい雰囲気になるかもしれないと危惧もしていたのですが、皆さん始めからうちとけられ、それぞれの現状や思いなどを存分に語っていただきました。紙面の都合で全部を載せられないのが残念ですが、ありがとうございます。

●エアコンで除湿された水をポリ缶に貯めておき、庭木に与える。(M.K)

●卵のカラは花壇に入れて肥料にしています。
●歯を磨くときはコップ1杯の水でします。
●広告の裏が書いてない紙はメモ用紙に使っています。(やさしい子)

わたしの「環境にやさしい暮らし」

先日行われました若林区民ふるさとまつりに寄せられたアイデアをご紹介します。

●買物はマイバッグ持参、余計なビニール袋はもらわない。美しい包装紙はお手製の紙袋に変身させてリサイクル。もらい物のおすそわけの時等に使用。ミニサイズにしておこづかい袋にも!(ニャンコ大先生)

環境問題も身近なアイデアと心がけから、きれいなふるさとを次の世代に。